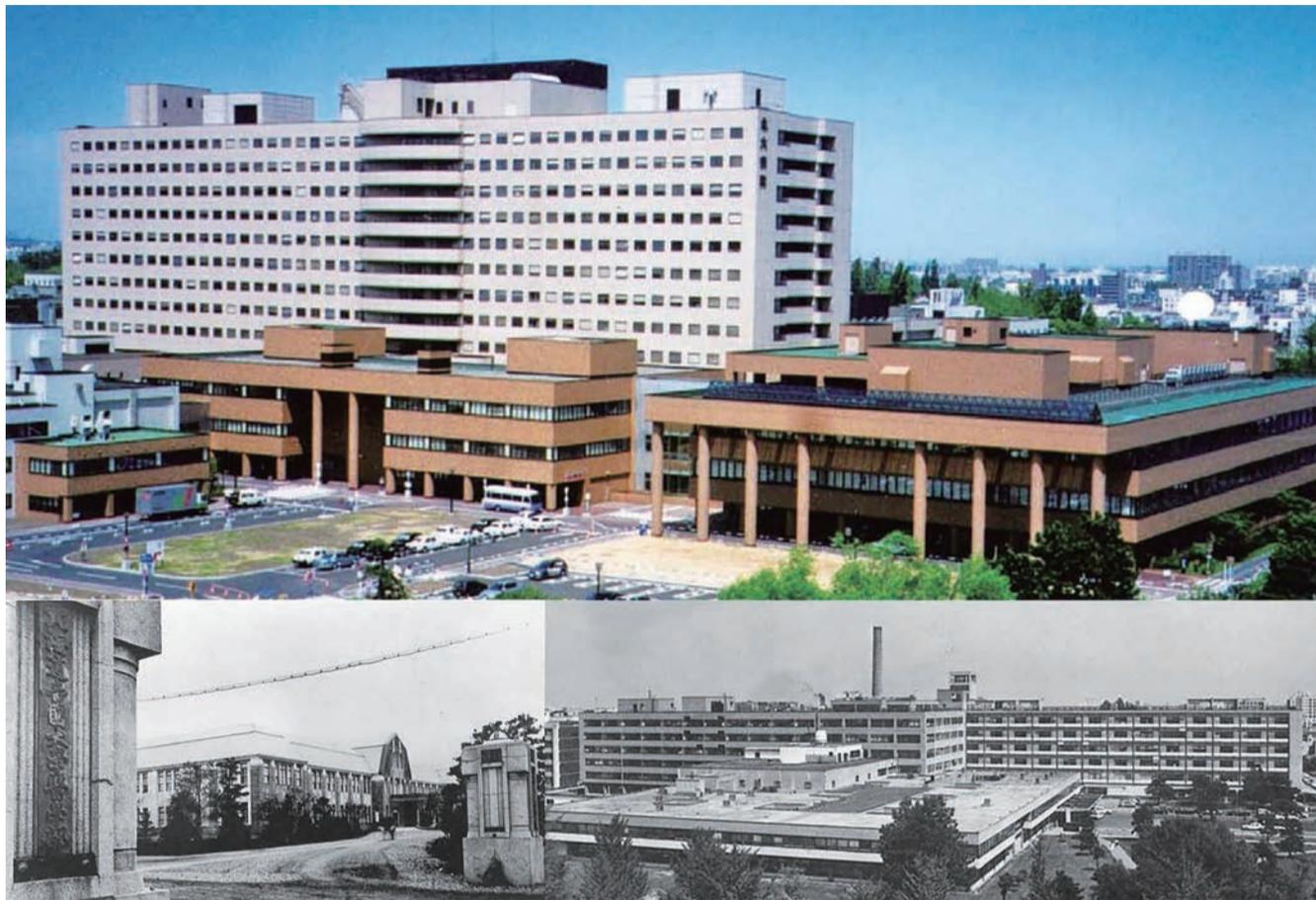


発行所
 札幌市北区北15条西7丁目
 北大医学部同窓会
 TEL&FAX (011) 706-5007
 E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp
 https://hokudai-med-dousou.com

編集人 矢部 一郎
発行人 浅香 正博

北大医学部同窓会新聞



「北大病院100周年」

白井 慎一 (83期)

CONTENTS

- (1) 北大病院創立100周年にあたって
渥美 達也
 ・北大病院100周年記念事業について
本間 明宏
- (2) 教授就任のご挨拶朝倉 聡
 吉川 雄朗
 ・ズームアップ②④加藤 達哉
- (3) ズームアップ⑤柳 輝希
 氏家 英之
 ・第62回医学展西岡 佳子
- (4) 医学部医学科公認サークル
 紹介シリーズ 第12回
 医歯薬陸上部藤枝 岳矢
 弓道部高井 恒輝
 ・フラテ110号発行のお知らせ
- (5) 事務局からお知らせ
 ・告知板
 ・新刊書紹介
- (6) 北海道医学会からお知らせ
 ・会員名簿の処分にお困りの方へ
 ・過年度会費が2年を超える会費未納者と
 同窓会誌の発送について
 ・医学部百年記念館の利用について
 ・ご逝去者
 ・一面の写真説明
 ・編集後記



北大病院 創立100周年にあたって

北海道大学病院 病院長 渥美 達也 (64期)

北海道帝国大学医学部の創設につづいて、1921年(大正10年)11月、勅令第118号を以て、北海道帝国大学医学部付属病院が開院しました。終戦後、北海道大学医学部付属病院と改称、そして1967年(昭和42年)に開院した歯学部付属病院が医学部付属病院に統合され、2003年(平成15年)、現在の北海道大学病院に再編されました。現在、北大病院は分院を含めて944床、医科32、歯科12診療科からなる北海道で最大規模の医療機関として北海道の医療を担っています。

北大病院の100周年は本来2021年でした。しかし同年はパンデミックの真ただ中ということで、式典は延期となり、本年102年目にしてようやく100周年記念行事を開催の運びとなりました。行事の内容については本号に本間明宏副病院長が詳細に記載されていますので、ご参照いただけますと幸いです。

さて、私の自宅に、「写真集・医学部60年の歩み」という本があります。私が北海道大学に入学したのが1982年(昭和57年)でしたので、この本が発刊されたのは教養1年目の冬ということになります。ページをめくっていくと、15ページに「開院した附属病院」という写真が

あり、万国旗で飾られた2階建てのレンガ造りの建物が写っています。時代の推移がよく記録されたこの写真集をあらためて拝読し、この写真集発刊までの60年間と私自身が経験した40年間を加えて合計100年の歴史の重みをまさにずっしりと実感いたします。

都ぞ弥生は、その前口上によると明治45年の寮歌ですので、医学部の開学前から北大生によって歌われていたこととなります。大学キャンパスにそびえる北大病院は開院以来100年間ずっと学生達が歌う都ぞ弥生を聴きながら医学・医療の発展を担ってきたわけです。私は学生時代から、「自然の藝術(たくみ)を懐(なつかし)みつつ、高鳴る血潮のほとばしりもて、貴(たふ)とき野心の訓(を)しへ培(ひ)む」という5番の歌詞に強く惹かれています。1921年の北大病院開院時、そこに居た教員・学生が思い描いた未来の医療、その開発のために培った貴い野心の訓え、それを次の100年も引き継いで北大病院を発展させていきたいものです。



北大病院 100周年記念事業について

北海道大学病院 副病院長 本間 明宏 (65期)

北大病院の歴史は1921年(大正10年)4月に医学部附属病院が設置されたことに始まり、同年11月に開院し内科、外科、産婦人科の診療が開始されて以来歳月を重ね、2021年に100周年を迎えました。コロナ禍で祝賀行事を開催することができず2年遅れになってしまいましたが、本年11月4日(土)に札幌グランドホテルにて記念式典、記念講演会、祝賀会を開催する予定です。記念講演会では特別講演を東京女子医科大学神経内科名誉教授の内山真一郎先生(50期)、南極料理人の西村淳氏にお願いしております。内山先生は脳梗塞診断・治療の第一人者であり、長嶋茂雄氏の主治医としても知られています。西村氏は、映画『南極料理人』の原作である『面白南極料理人』シリーズなど、南極地域観測隊に参加した経験から著述や講演など幅広い活動を行っていらっしゃいます。現地開催に加えwebでも配信予定ですので、多くの方のご参加をお待ちしております。

また、記念事業としてもう一つ、100周年記念誌も作成予定です。コロナ禍で作業が滞っていましたが、5月のゴールデンウィーク後から新型コロナ感染症も5類になり、日常生活も診療

もほぼ通常に戻ったことで、気分も盛り上がりしておりますので、コロナ禍で停滞を余儀なくされた分を取り戻すべく急ピッチで作成してまいります。同窓の先生方には北大病院100年の歴史と伝統を記念誌で感じ取っていただき、これからの北大病院のさらなる隆盛にご協力いただきたいと思います。また、現在まだこの世に生を受けていない、将来北大病院で働く人たちが手に取って、北大病院の歴史を知り、伝統を感じ、継承・発展させたいと思える記念誌にしたいと思っています。原稿を依頼された先生方は、ご協力宜しくお願い致します。同窓の先生方におかれましては、完成までいましばらくお待ちいただくようお願い申し上げます。



教授就任のご挨拶



北海道大学
保健センター

朝倉 聡
(69期)

この度、令和5年4月1日付で、北海道大学保健センター教授・センター長を拝命いたしました。ここに謹んで新任のご挨拶を申し上げます。

保健センターは、大正14年に学生生徒診療所として開設され、昭和6年には学生生徒健康相談所、昭和36年には保健診療所、昭和47年には保健管理センターと改称され、平成22年からは現在の保健センターの名称となっております。

す。昭和47年の保健管理センターに改称以降の所長またはセンター長は、高橋香織教授、木下眞二教授、本間行彦教授、武蔵学教授、橋野聡教授がご担当されました。歴代、内科からの担当でありましたが、初めて精神科での担当となりました。近年、学生、教職員のメンタルヘルスに関する対応が多くなってきていることもあり、これらにも注力していきたいと考えております。

私は、平成5年に北海道大学医学部を卒業し精神医学教室に入局いたしました。その後、北海道大学病院や関連病院で精神科臨床の研鑽を積ませていただきました。青年期の神経症・不安症として、特に我が国で多くの検討がな

され重要な対人恐怖・社交不安症についての研究は、先々代の山下格名誉教授以来、北大精神科において脈々と続けられているテーマであります。私は、この臨床研究に携わらせていただいております。臨床症状評価尺度として国際的に使用されているLiebowitz Social Anxiety Scaleの日本語版(LSAS-J)を作成し、その信頼性および妥当性を確認して保険適応を取得し、国際的に有効性が検討されている選択的セロトニン再取り込み阻害薬(SSRI)について、日本人においての有効性、安全性、認容性に関わる臨床試験に医学専門家として参画し、これらを確認して保険適応を取得いたしました。

た。日本における社交不安症診療ガイドライン作成に参画し、ガイドラインはMindsに掲載されております。また、平成16年からは、保健センターにおいて精神衛生相談として精神科診療を行い、学生のメンタルヘルス対策として入学時、定期健康診断時のスクリーニング検査と受診時の精神症状等について検討してきております。今後、学生18000人の校医として、また教職員4000人の産業医として尽力して参りたいと存じます。

同窓会の皆さまには、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



北海道大学大学院
医学研究院
薬理学分野
神経薬理学教室

吉川 雄朗
(会員2)

この度、令和5年5月1日付で北海道大学大学院医学研究院薬理学分野神経薬理学教室の教授を拝命いたしました。当教室は1922年に開設され、初代教授である三輪誠先生から、真崎健夫先生、田邊恒義先生、齋藤秀哉先生、吉岡充弘先生へと引き継がれ、第6代教授として小生が着任しました。100年以上にわたり薬理学の研究及び教育に大きな貢

献をしてきた歴史ある教室を主宰することとなり、非常に光栄に感じております。

私は東北大学医学部医学科を卒業し、福島県の太田西ノ内病院で内科系の臨床研修医として勤務いたしました。その後は東北大学大学院医学系研究科の博士課程に進学し、膵β細胞のインスリン分泌機構に関する生化学研究を行い、医学博士を取得しました。2009年に東北大学大学院医学系研究科機能薬理学分野に助教として着任し、以降は薬理学研究に従事しております。また短期間ではありますが、2011年に米国サンディエゴにあるSanford-Burnham

Medical Research Instituteに留学し、糖鎖生物学について勉強させていただきました。

研究は主に脳内ヒスタミンを研究対象として行っています。特に神経終末から放出されたヒスタミンがどのようなメカニズムで不活化されるのか、というヒスタミン除去機構に着目してin vitroおよびin vivoの両面から薬理学研究を進めております。その中でヒスタミン代謝酵素であるHNMTの重要性を示すことができ、またHNMTを阻害することで脳機能が活性化することもわかってきました。現在はBINDS(創薬等先端技術支援基盤プラットフォーム)

などから支援を受けて、新たなHNMT阻害薬の創薬を進めております。また米国で学んだ糖鎖研究も引き続き行います。薬理学教育についてはロールプレイなどを用いたアクティブラーニングを導入しながら、薬物治療に必要な思考能力や問題解決力を滋養していきたいと考えています。

微力ではございますが、神経薬理学教室、そして北海道大学のために一杯尽力して参ります。ご指導ご鞭撻の程、よろしく願い申し上げます。

ズームアップ②④ 肺移植クラウドファンディング目標達成のお礼と成功への道

北海道大学病院 呼吸器外科 加藤 達哉(73期)



約2か月に渡り、クラウドファンディング(以下CF)「北海道の地で待望の肺移植、実現へ」のプロジェクトは、最終的に344人の方々から総額1,738万5千円ものご支援を頂き、目標を大幅に超えて達成することができました。今回CFを通じてわかったことは、資金集めも大事なことでしたが、それ以上に我々のやりたいこと、肺移植の準備状況を知っていただけたことの意義の方が大きかったと思います。そして、プロジェクトが盛り上がり、肺移植医療に関わる関係者一同に然るべき方向性を示していただきました。実際に、手術室の看護師さんから「いつから準備始めたらよいの?」と聞かれたり、札幌・旭医大の先生方からも「移植が必要そうな患者さんがいるんだけど、どうしたらいい?」と聞かれる機会が増えました。本プロジェクトに関わっていただいた関係者の皆様はこの場を借りて深く感謝申し上げます。

CF運用開始の案内が来たのは昨年11月のことで、北大基金室がREADYFORという会社と組んで、北大全体で10個のプロジェクトが募集されました。肺移植実現に向け移植に関わる医療関係者が道外の移植施設で実地研修を行う

ための費用を賄う必要がありましたが、プロジェクトの性質上、公的資金に応募することもできず、奨学寄附金なども望めない昨今の状況下で、新設医局で十分な資金もない我々は、資金集めに悩んでいたところに飛び込んできた絶好の話でした。

CFの調達方式は、「All or Nothing型」では期間内に目標金額を達成した場合のみ支援金を受け取ることができ、「All in型」は目標金額の達成に関わらず、支援金を受け取ることができます。当初は、「目標額に行かないと全部没収されてしまうのならAll in型の方がいいに決まっている」と思っていたのですが、ヒトは期限が決まっていなると中々動かない、かえって期限を設けてあげた方が寄付をする確率は増えるそうです(CFの9割はAll or Nothing型)。また、北大のCFは寄附金控除型でフロンティア基金と連動して、かつインターネットで申し込めるのも非常に大きかったと思います。

コツ1:「支援をしたい」と強く思っていたく動機づけ

CFを立ち上げれば支援が自ずと集まるわけではなく、知り合いに声をかければ支援が集まるわけでもありません。

「支援をしたい」と思っていたく強い動機がなければヒトは動きませんので、プロジェクト紹介の文章は何度も練り直し、写真や図などを多く取り入れました。応援コメントも呼吸器内科今野教授と臓器移植医療部嶋村教授に連絡先を教えてください、実際に肺移植を受けられた患者さんにも協力していただきました。

コツ2:あまり最初から高い目標額を設定しない

目標額の設定は自由に設定できますが、最初から高い額を設定すると、期限が迫ったときに、プレッシャーになってしまいます。あまり高望みをせず、目標に達したら、第二、第三ゴールと目標を再設定できますので、そちらをお勧めします。READYFORに手数料がかかりますが、サポート体制も含め十分その価値はあります。

コツ3:広く周知する方法を探る

まず、個人的に繋がりのある(顔が思い浮かぶ)方々への個別の連絡、教室HPや同窓会などのWebサイト、SNS

北海道の地で待望の肺移植、実現へ。

第一目標金額700万円 2023年3月1日(水)9時から4月28日(金)23時まで

北海道大学病院呼吸器外科がクラウドファンディングに挑戦中！
北海道の地で待望の肺移植、実現へ！
北大呼吸器外科の挑戦にご支援を

肺移植は、あらゆる内科的治療を駆使しても回復の見込みがなく、症状が極めて重篤な慢性肺疾患の患者さんに行われる、いわば最終手段ともいえる治療法です。肺移植認定施設は日本に10施設ありますが、北海道内に認定施設は、現在一つありません。

肺移植の実現は、北海道の肺移植を望む患者さんに対する北大病院の責務とも考えています。院内の関係各科との連携をはかり、万全のチーム体制を整え、近い将来の肺移植の実施を目指したいと考えています。もちろん公的資金の調達も行いますが、それだけでは不足しているのが現状です。

私達が掲げるこの高い目標には、皆様のお力が必要です。是非とも北海道で初の肺移植医療実現に向け、どうかご寄附をお願いいたします。

北海道の患者さんにとって最高の医療を
北海道大学病院 呼吸器外科 教授 加藤 達哉

インターネット上のお手続きが難しい場合は、北海道大学病院呼吸器外科医局まで直接ご連絡ください。
EMAIL: therapeutics@med.hokudai.ac.jp TEL: 011-708-6009

READYFOR 北海道大学 肺移植 レディーフォー

等を利用して、広くプロジェクトを知ってもらうことが大切です。CF公開前に面談が何回かありますが、その都度「宿題」を出されますので、言われた通りに準備を進めていきました。旧第二外科の同門会や関連病院の先生方にもご支援を依頼するお手紙を出しました。北海道新聞に取材していただき、道民

の皆様にも広く周知することができました。また、外来にチラシと院内デジタルサイネージに掲載していただき、多くの患者さんからご支援をいただきました。募集期間の後半では、「支援の

輪」がネットを通じて徐々に全国へ広がり、その波に乗っていただける方々が増えていきました。

以上、初めてのCF挑戦の経験談を述べさせていただきますが、改めまし

て今回のプロジェクトにご協力いただきました同窓会の先生方、そして関係者の皆様へ感謝申し上げますとともに、ご支援していただいた皆様の思いをしっかりと形にして肺移植実現に向けて

確実に前へ進んでいきたいと思っておりますので、今後ともご指導のほど宜しくお願い致します。

ズームアップ²⁵ 希少がん「乳房外パジェット病」に対する抗がん剤治験実施について

北海道大学病院皮膚科
講師 柳 輝希 (79期) (写真左)
教授 氏家 英之 (78期) (写真右)



北海道大学病院皮膚科にて実施している医師主導治験「進行期乳房外パジェット病に対するエリブリン単剤療法」とそれに関連して行ったクラウドファンディングについて報告させていただきます。北海道大学大学院医学研究院皮膚科学教室腫瘍研究グループは、稀少皮膚がんの一種である「乳房外パジェット病」の病態・治療法を研究しており、2020年に現在利用可能な世界で唯一の動物モデル（乳房外パジェット病を持つマウス、異種移植モデル

(Patient-derived xenograft: PDX) を作製しました (Maeda et al. Oncogene 2020, 図1参照)。本モデルに対して既存のさまざまな抗がん剤を試してみたところ、特に有効だと判明したのが乳がんや悪性軟部腫瘍に保険適応となっているエリブリン (ハラヴェン[®]) です。そこで臨床試験を計画し、2020年度AMED臨床研究・治験推進研究事業STEP1に採択され、「進行期乳房外パジェット病に対するエリブリン単剤療法」の治験実施体制を整備いたしました (図2参照)。

その後、公的資金の獲得に難渋し治験開始が難しい状況でしたが、2022年度北大病院医師主導治験の実施支援(緊急対策)に採択いただき、患者登録・治験実施を進めております。また、現在の資金だけでは治験完遂が困難であることから、北海道大学とREADYFOR社にて実施している北海道大学クラウドファンディング制度を活用し、治験薬購入費についてのクラウドファンディングに挑戦いたしました (2023年3月1日～4月29日、目標1000万円、図3参照)。

同窓生の先生方、北海道大学皮膚科同門会甲子会の先生方、希少がん患者様・ご家族、乳房外パジェット病患者会「シエスタ会」など多くの方からご支援を賜り目標金額を達成することができました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。現在、治験を進める環境が整っており、北海道大学病院にて医師主導治験を実施中です。もし乳房外パジェット病の患者様がいらっしゃいましたら、北海道大学皮膚科にご紹介いただければ幸いです。

図1: 乳房外パジェット病-稀少がんモデルの樹立

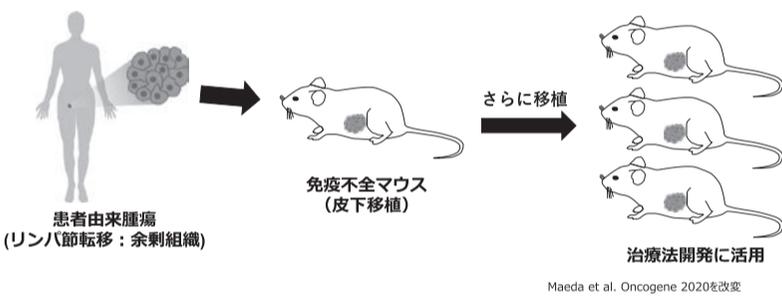


図2: 臨床試験概要

治験の概要
1) 医師主導治験
進行期乳房外パジェット病に対するエリブリン単剤療法の第II相臨床試験
2) 単群オープンラベル試験
3) 主要評価項目:
全奏効率 (画像中央判定)
4) 目標症例数: 18例 (必要症例数16例)

図3: クラウドファンディング紹介文書(一部抜粋)

第62回医学展

医学展実行委員長
西岡 佳子 (第103期)
医学科3年

「医学展」は学生有志により組織された実行委員会を中心として、北大祭の企画の一つとして運営されます。これまで61回の開催にわたり、年毎に時勢に合わせてテーマ・企画を変えながら、市民の皆様と医学生との交流の場となっていました。来場者の皆様には種々様々な企画を通して医学を身近なものと感じていただき、医学展を通じて健康や医療に対する意識の変化のきっかけとなる機会としていただき、医学生にとっては、日々の勉学で培った知識を活用

するとともに、医学生としてどのように見られているのか、何を期待されているのかを実感し、来場者の皆様との交流を通して座学では得られない学びを得る機会となることを目標としています。

本年度の第62回医学展は2019年度以来の大規模開催となりました。今年のテーマ、「医新世」は、mRNAワクチンに代表される、医療技術が新しい時代に突入したことを表現し、医学の分野においても常に進化し続けること、新

しい知見や技術を取り入れて発展していくことが必要不可欠である、という意図を込めたものであります。新しい時代の、新しい「医学展」にふさわしく、様々な企画を実施いたしました。例年人気のあった、一次救命措置の体験ができる「心肺蘇生・応急措置体験ブース」、臓器の病理組織標本を実際に顕微鏡で観察してもらえる「病気を見つけよう」に加え、子宮頸がんワクチンについて知ってもらうための「子宮頸がん啓発パネル」や、各研究室の研究についてのポスター展示など、新たな企画にも挑戦しました。医学系部活による模擬店や、IFMSA北大のぬいぐるみ病院も合わせて医学展主導の企画が4

つ、外部団体主導の企画が2つ、計6つの企画により医学展を盛り上げ、2日間を通して3000人以上の方々にご来場いただくことができました。

最後に、本年度も企画勉強会で御指導いただいた北海道大学付属病院の皆様、企画備品を提供していただいた北海道大学大学院医学研究科分野の皆様、献血に来ていただいた北海道赤十字センターの皆様、ご協賛いただいた皆様、実行委員会の皆様、医学部学友会様、医学展の企画に力を貸してくれた医学生スタッフ全員に、改めて感謝申し上げます。



今年作成した横断幕



科学体験部門:病気を見てみよう



科学体験部門:バスタで骨格

医学部医学科公認サークル紹介シリーズ 第12回

医歯薬陸上部

医学科4年
藤枝 岳矢(第102期)

北海道大学医歯薬陸上部は2013年に創立され、今年で10周年を迎えました。当初は歯学部学生、数人の活動から始まった医歯薬陸上部ですが、現在は医学科26人、保健学科17人、その他理系学部30人(歯、薬、獣医、工)の計73人の部員(うちマネージャー6名)を抱える大規模な部活に成長しました。練習は火曜日と土曜日の週2回、サークル会館前の北大グラウンドにて行っています。各種大会において本気で優勝や自己ベスト更新を狙う選手から、健康維持のために軽く体を動かしたいという部員まで、部員の練習目的は十人十色ですが、全員が各々の目標に向かって日々楽しく活動しています。

そんな医歯薬陸上部の魅力は何と

いても部員同士の仲の良さです。練習時の和気あいあいとした雰囲気もそうですが、練習の無い日でも学部学年関係なくお互いに誘い合い楽しい時間を共有しています。また部員の大半が医療系の学生ということもあり、学業や進路の相談をできる先輩が多く、卒業後にもつづく医歯薬陸上部のOBOGで築かれる医療従事者ネットワークの存在はとても魅力的だと感じます。

部活のイベント等に関してはコロナ渦以降中止になっている大会や行事がほとんどでしたが、昨年度より少しずつ復活させることができおり部としての盛り上がりもより一層増えています。これらのイベントに全力で打ち込むのも医歯薬陸上部の特徴であり、こ

れが陸上競技のモチベーションにも繋がっています。また今年度は4年ぶりに東医体も開催される予定で、部員たちは優勝に向け熱気に満ち溢れています。

最後にはなりますが、顧問の田中真樹先生、OBOGの先輩方、日頃より格別のご高配を賜り心より感謝申し上げます。今年度、医歯薬陸上部は新たに18

名の新入部員を迎え新体制でスタートいたしました。今後もこの素晴らしい環境で活動できることに感謝をしつつ、日々精進してまいります。今後ともご指導のほど宜しくお願い申し上げます。



弓道部

保健学科4年
高井 恒輝(検査第17期)

北大医学部弓道部は創部6年目のまだ若い部活で、現在13名の部員が活動しています。活動は週2回+土曜日の自主練で部員それぞれが自分のペースで練習に取り組んでいます。普段は宮の沢の西区体育館の弓道場をお借りして、一般の方とともに練習をしています。

部員の半数以上が最初は未経験の初心者なのですが、大会メンバーになったり、大会で入賞したりと優秀な成績を収めている部員もいます。弓道のいいところは、個人競技なので各々のペースで活動できるということです。部員の中には積極的に様々な大会に出て優秀な成績を取っている人もいれば、テスト前等勉強が忙しければそちらを

優先することもできます。また、上達がわかりやすいというのも特徴の一つです。定期的に行われる審査によって段位を取得できるので、段位を上げることで上達を感じられます。段位以外にも、初心者の頃は的中することで上達がわかりやすいです。初めての当たったときの快感は忘れられません。

毎年医学科部員は東医体へ出場していたのですが、ここ数年新型コロナウイルスによる大会中止に伴って多くの部員は東医体未経験です。部活が始動した矢先の大会中止でしたので、東医体で名を残すこともなく知名度は卒業した先生方をはじめ、学科内でも低いものと思われま。まだまだ歴史の浅

い部活ですので、ご存知ない先生方も多くいらっしゃることは存じますが、これから先東医体をはじめとした各大会において結果を残していけるよう、部員一同精一杯練習に励んで参りますので、応援のほどどうぞよろしくお願いいたします。また先述の通り、普段

は西区体育館で一般の方と練習をしているので、弓道をしていらっしゃる先生方で体育館にお越しになることがありましたら、ぜひ声をお掛けいただければ幸いです。



フラテ110号発行のお知らせ

医学部フラテ編集部

同窓会新聞をご覧の皆様、いつも学友会誌フラテをご購読いただき、誠にありがとうございます。皆様の温かいご支援を賜り、今春に「フラテ109号」を無事発刊することができました。

さて、我々フラテ編集部では、来年3月発行予定の「フラテ110号」の発行準備を進めております。本号では、ここ数年中止を余儀なくされていた、全国の卒業生の先生方を訪ねる「各地に行く」という記事が再始動する予定です。100号以上続く学友会誌として、これまで通り先生方のご活躍をお届けしながら、新しい時代へ変化していく様子を後世に伝えられ

ばと思います。

我々フラテ編集部は、「北大同窓生の茶の間」であるべく、本号もほっと一息ついていただける温かい記事を多数ご用意しております。近年は比較的若い先生方からのご購読が減少傾向にあります。もし、この文章で少しでも興味を持って頂けた先生方がいらっしゃいましたら、是非ご購読下されば幸甚です。

ご購入をご希望の方は、同封の払込用紙またはQRコードからお支払いをお願い致します。電話でのお申し込みは受け付けておりません。ご了承ください。すでに109号巻末の用紙で申し込まれた方は今回申し込む必要はございません。

110号の主な内容(予定)

- ・各地に行く
- ・若手医師へのインタビュー
- ・教室日より、各教室の勉強会、説明会一覧
- ・新任教授インタビュー
- ・みどりのベンチ(医療界で活躍する女性へのインタビュー)
- ・茶苑



フラテ茶苑 寄稿者募集

フラテ茶苑では、卒業後の先生方からのご寄稿文を掲載しております。期を問わず、ご自身の専門分野、趣味等をご投稿いただけます。多くの学生が読んでおり、北大出身の先生方の多彩な分野での活躍は学生にとって視野

を広げる格好の機会となっております。

様々なバックグラウンドを持つ先生方がフラテ茶苑を通して交流できる、そんなコーナーにしていけたらと思います。今年度も沢山のご寄稿をお待ちしております。

○内容・形式・字数:自由(専門分野のお話、趣味のお話、最近取り組んでいる事など)

○〆切:2023年11月30日

フラテ編集部
E-mail:frate.med@gmail.com
〒060-8638
札幌市北区北15条西7丁目
北海道大学医学部内

事務局からお知らせ

同窓会費について

○会費納入のお願い

会員の皆様には、会費納入にご協力いただきありがとうございます。
同窓会の事業は会員の皆様の会費によって運営されています。会費納入にご理解とご協力をお願い申し上げます。

○会費納入は次のいずれかの方法によります

- ①口座振替、②コンビニ納入、③銀行振込
※詳しくは同窓会新聞に同封される払込票をご覧ください。
- 会費未納者と刊行物の送付
・過年度分未納会費が2年を超える会員

には、会員名簿（同窓会誌）をお送りしません。
・納入が9月30日を過ぎると、入金確認及び印刷部数確定の都合によりお送りすることができません。
○会費免除者と刊行物の送付
・会則により、卒業後55年を経過した

会員の会費は、翌年度から免除となります。
・43期生は令和5年度から、44期生は令和6年度の会費から免除となりますが、免除前に過年度分2年を超える未納会費がある場合は、会員名簿（同窓会誌）をお送りしません。

ドクター総合補償制度のご案内

同窓会では「ドクター総合補償制度」を創設し、現在、500名近い会員が加入して、ご好評をいただいています。
本制度には「医師賠償責任保険（勤務医向け）」、「医療・がん保険」、「所得補償保険」があり、団体割引が適用さ

れるので割安な保険料で加入することができます。
年度途中でも加入出来ますので、同窓会事務局あるいは取扱代理店にお問い合わせください。

（同窓会事務局）
電話：011-706-5007
E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp
（取扱代理店）
株式会社第一成和事務所
〒103-8214 東京都中央区日本橋

馬喰町1丁目12番3号 Daiwa日本橋
馬喰町ビル3階
フリーダイヤル：0120-100-492
E-mail: koumu@d-seiwa.co.jp



告知板

＜学内・院内人事異動＞

- ＜採用＞
2023年8月1日 久保 康則(83期) 麻酔科 助教
- ＜配置換＞
2023年7月1日 長津 明久(81期) 消化器外科学教室 I 特任助教 (同教室 特任研究助教)
- ＜所属換＞
2023年10月1日 清水 康(71期) 腫瘍センター 助教(腫瘍内科)

＜北大医学部39期生卒業後60周年記念同期会＞

主題～遠き日そして遙かなる日～
日時：令和5年9月15日（金）18:00 札幌グランドホテル 3F 紅葉の間
幹事：鎌田 覚、小西 藤平、鈴木 重統、松浦 信夫

＜北海道大学医学部59期 卒業後40周年記念同期会のご案内＞

1983年(昭和58年)に卒業した我々は、この春卒業後40周年を迎えました。定年を迎えて第二の人生を歩み出した諸兄も増えつつあります。5年ぶりに旧交を温めるべく以下の要領で同期会を開催します。奮ってご参加下さい。なお、出欠は別便でお届けした返信用はがきをご利用下さい。
日時 2023年9月23日(土) 17時集合予定
会場 札幌パークホテル 札幌市中央区南10条西3丁目
会費 一次会+集合写真 11,000円
二次会ならびに翌日のゴルフも用意がございます。
59期会幹事
釧路労災病院 小笠原和宏 kaz-og1769@docomonet.jp
札幌厚生病院 髭 修平 shuhei.hige@ja-hokkaidoukoukouseiren.or.jp

＜小児がん治療に関するクラウドファンディングについて＞

BRAF変異陽性の小児がん患者へ有望な未承認薬を届ける患者申出療養を開始しました。クラファン（9月-10月）にご協力を！
⇒北大×クラファン（木下一郎（64期）／真部 淳（61期））

新刊書紹介



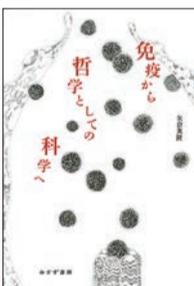
【沖仲仕が医師になって】

あおやま こうたろう こばやし かずひさ
青山 光太郎(45期) 小林 一久
幻冬舎 ¥1,430

以前、「望ましい臨床医の条件とは?」と題したエッセイを読んだことがある。まず品性が卑しくないことから始まって、相手の身になって考える、経済的な困窮、大病に罹患し回復、他業種での就労、スポーツや失恋の経験などが記されていた。
このたび上梓された小林一久先生の自伝小説『沖仲仕が医師になって』の主人公の言動は、そのエッセイの内容に驚くほど合致する。「どんな患者とも同じ目線で接する土壌を作ってくれた」

沖仲仕（港湾労働者）が題名に用いられたのも、それが氏の医師人生の原点だったからだろう。農家の長男だった氏は農業高校から静岡大理学部に進学したが、シュバイツァーの生き方に感銘を受け医師を志す。医学部編入試験では他校に合格するも、be ambitiousに憧れ本学を選択された。
卒業後、帰郷した山梨では国立病院内科に席を置き、後に北里大、山梨医大（当時）を経て、健康管理センター（厚生連）に迎えられた。晩年にアメリカ

への語学留学や国境なき医師団への応募など、シュバイツァーへの思いは強かったが、家族の反対でアフリカ行きは断念。しかし、様々な困難に遭遇しても乗り切れたのは、「アフリカに比べれば」との思いがあったからという。夢を追い続けた氏の軌跡は、特に若手の医師や医学生に参考になるだろう。
なお氏と同郷の筆者は、患者紹介や氏の主宰された農村医学会などで大変お世話になった。
(43期 井上勝六)



【免疫から哲学としての科学へ】

やぐら ひでたか
矢倉 英隆 (48期)
みすず書房 ¥4,400

矢倉英隆先生は、第一病理で学位を取得し、ダナ・ファーバー癌研究所、スローン・ケタリング記念癌研究所、旭川医科大学、東京都医学総合研究所で、分子生物学的手法を用いてB細胞研究をされてきた。退職後は一転して、パリに渡り、科学を哲学から捉える思索と研究の道へと進まれた。その経緯は本著のはしがきに述べられているが、現在の科学研究が限られた領域の課題に集中するあまり、当該領域の全体像や、科学の特質を見失ってしまうとい

う危機感であったという。免疫学の揺籃期では、自己識別、記憶といった免疫現象に対するモデルの構築と、事実と照らし合わせた厳格な評価が盛んに行われた。しかし、現在では、個別の疾患機構や、新規亜細胞集団の同定など、いわば些末な部分に研究の主流が移っている。本書の前半では、免疫学者による免疫機構探究の歴史を辿りながら、免疫の本質を俯瞰的に示しており、この部分だけでも、免疫学を単なる知識ではなく、その意義を理解する

助けになるであろう。しかし、本書の眼目は、細菌や植物を含めた生物全般が免疫と同等なシステムを保有する事実から、免疫の本質が、生命の自己保存機能を発揮するための情報処理システムであるという命題を平易な論述を通して示しつつ、読者に思索を促す後半である。情報過剰の現代において、自らが思索するという行為が、医学に携わる者にとって最重要であることを改めて認識させてくれる一冊である。
(68期 阿戸 学)

次号に新刊書紹介をご希望の方は、右記の要領でお送りくださいますよう、お願いいたします。

【原稿締切日】 2023年10月17日(火)までにお送りください。
【字 数】 本文600字以内をお願いいたします。※本文の前に「タイトル」、著者名(または編集者・監修者名等)フリガナ(卒業期)、出版社名、金額(税込)、最後に執筆者名および卒業期を明記してください。

【表 紙】 表紙の画像をメールに添付してお送りください。
【書評執筆者】 著者(編集者・訳者・監修者)以外の同窓会員(会員2も含む)に限ります。
【原稿送付先】 furate@med.hokudai.ac.jp
【掲 載 号】 新聞177号(1月号、1月上旬頃発送開始予定)

北海道医学会からお知らせ

○北海道医学会について

北海道医学会は北海道における医学と医療の進展を図るため、大正12年に発足した学術団体です。現在は、北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学の医師、医学研究者のほか本会の目的に賛同される方々を一般会員として、また道内の主要医療機関には特別会員として、本会に功績のあった方々には名誉会員としてご参加いただいています。

※ 北海道医学雑誌は大正12年8月の創刊以来、戦中、戦後の一時期を除いて今日に至るまで継続して刊行され、北海道における医学総合雑誌として広く認知されています。
本誌は原著論文以外にも、「研究会」「教室だより」などのセクションにおいて会員の様々な活動を紹介しています。

○入会のご案内

本会に入会されていない同窓会員におかれましては、是非ご入会いただきますようご案内申し上げます。医療機関としてのご入会も歓迎します。
なお、会員には機関誌「北海道医学雑誌」を発行の都度お届けいたします。
入会方法は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

○主な活動内容

- ・機関誌「北海道医学雑誌」の発行（5月、11月：令和4年は第97巻）
- ・学術集会「市民公開シンポジウム」の開催（10月下旬：昭和42年から実施）
- ・若手研究者への「研究奨励賞」の授与（年3名以内に賞状及び副賞：昭和58年から実施）

○会員の状況（令和4年12月31日現在）

- ・一般会員 566名（年会費 4,000円）
- ・学生会員 2名（年会費 1,000円）
- ・特別会員73団体（年会費 25,000円）
- ・名誉会員 165名

・投稿規定、掲載料等は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

○お問い合わせ先

北海道医学会事務局
電話：011-706-5007
E-mail: digakkai@med.hokudai.ac.jp

会員名簿の処分にお困りの方へ

会員名簿には個人情報に掲載されています。ご不要になった名簿の処分が困難な方は、レターパック等により同窓会事務局へ送付してください。**なお、恐縮ですが、送料は各自でご負担願います。**

○送付先
〒060-8638
札幌市北区北15条西7丁目
北大医学部百年記念館
北海道大学医学部同窓会事務局

過年度会費が2年を超える会費未納者と同窓会誌の発送について

【令和5年度同窓会誌について】

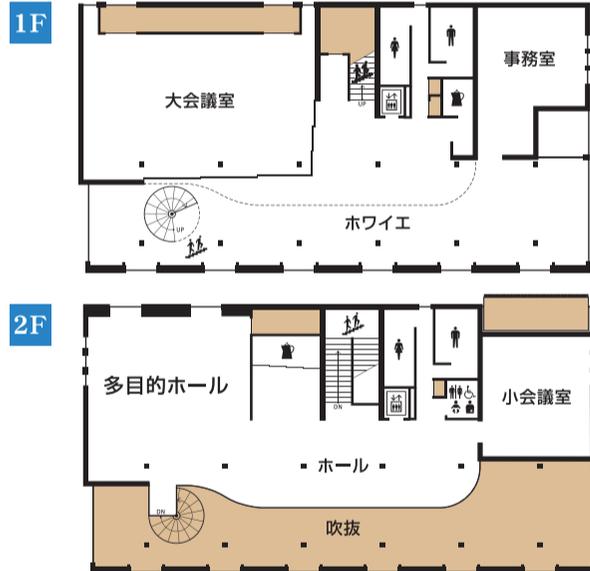
過年度分未納額が1万円を超えている方の納付期限は2023年9月30日としております。年度内(2024年3月31日まで)ではありませんので、ご注意ください。印刷経費等高騰のため、予備の印刷部数を減らし経費節約に努めておりますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

【過年度分の名簿および会誌について】

後日滞納分を納付いただきましても、在庫不足のためお送り出来ない場合がありますので、ご了承ください。

医学部百年記念館の利用について

北海道大学医学部百年記念館は、原則北海道大学医学部及び関係部局が主催する授業及び行事、また、同窓生の交流の場としてご利用いただけます。なお、事前予約が必要のため、ご利用希望の際は庶務担当までご連絡願います。



1F 大会議室

[収容人数：54名]

会議やセミナーに利用することを目的として設けました。椅子54脚と会議机27台の他、音響設備、映像設備を備えています。ホワイエとの間は大きな引戸になっており、開放してより大きな空間として利用することができます。

【設備】
椅子／会議用机／電動スクリーン／
液晶プロジェクター（固定）／
ワイヤレスマイク

2F 多目的ホール

[収容人数：42名]

会議よりもカジュアルでオープンな空間として、椅子42脚の他、大会議室同様、音響設備、映像設備を備えています。映像・音声メディアを活用したディスカッションや発表会に適しています。

【設備】
椅子／電動スクリーン／
液晶プロジェクター（固定）／
ワイヤレスマイク

2F 小会議室

[収容人数：18名]

小規模な会議やセミナーに供することを目的として設けました。最大18名での会議を行えます。木材を主とした建物全体の内装と趣を変え、落ち着いた雰囲気が集まることのできる空間になっています。

【設備】
椅子／会議用机

お問い合わせ先

北海道大学医学系事務部総務課庶務担当 ※同窓会事務局では予約及び予約状況の確認は出来ません。
TEL: 011-706-5004 FAX:011-717-5286 E-mail: shomu@med.hokudai.ac.jp
【受付時間】月曜日～金曜日（年末年始・祝日を除く）午前10時15分から午後5時まで

ご逝去者

新聞174号発行以降、ご連絡いただいた方を掲載しております。

御逝去年月日	氏名	期	御逝去年月日	氏名	期
2022年			5月13日	安達昌昭	36
6月15日	仙波宗一郎	47	5月14日	加地勝孝	30
10月30日	渡部一	58	5月26日	加前喜晴	44
2023年			5月26日	横田裕光	46
1月24日	野谷元啓	50	5月28日	南條継雄	44
4月9日	飯田正一	24	6月8日	田村康史	39
4月21日	山崎晃資	38	6月10日	大場淳一	52
4月25日	河合秀雄	30	7月6日	近藤和夫	58
5月3日	上妻和矩	35	7月8日	高橋正宜	専7新
5月3日	山川博生	60	7月	安達博子	28
5月8日	東堅治	専7旧	7月22日		36
5月11日	山田智二	44			

一面の写真説明

「北大病院100周年」

白井 慎一(83期)

歴代の北大病院の写真です。左下)北海道帝国大学医学部附属医院外来病棟(昭和3年頃)、右下)北海道大学医学部附属医院外観(昭和52年頃)、写

真集 医学部60年の歩みより、上)現在の北海道大学病院(平成8年頃)で写真集 北大医学部90年よりの転載です。創設以来、北大病院は診療、研究のみならず卒前および卒後教育の場として大きな役割を果たしてきました。次の100年に向けてもさらに邁進していくことでしょう。

編集後記

同窓会新聞176号をお届けします。最近はお伝えしたいことが多くて10ページを超える号が多かったのですが、もともと同窓会新聞は6ページを基準として作成することにしておりました。本号は基本に戻ったような形になります。私はページ数は都度変わるとメリハリ

が出ていいような気がしますが、皆様はいかがでしょう？

本号でも北大医学部の近況を知ることのできる記事が集まりました。私も初めて知る内容も多くありました。ご多忙の中、ご寄稿いただいた皆様に感謝申し上げます。

(80期 木佐健悟)

◎同窓会新聞は142号からHP上でご覧いただけます。アドレスは次の通りです。

<https://hokudai-med-dousou.com/news/index.htm>

◎新聞最新号webサイト公開時には、各期評議員・予備評議員の皆様にもメールで周知をさせていただきます。

◎会員登録情報の変更は、ホームページ内の「会員データ登録・変更フォーム」より、お手続きいただくことが可能です。

<https://hokudai-med-dousou.com/contact/>

印刷所 **大日本印刷(株)** 〒065-0007 札幌市東区北7条東11丁目1番1号
代表 (011) 750-2205